

学会名 第31回日本慢性期医療学会  
(2023年10月19日～20日)

研究テーマ KOMIケア理論を活用して終末期患者とその家族に寄り添ったケア

病院名 医療法人社団健育会 石巻健育会病院

演者 ○阿部めぐみ(看護師)  
小山友紀(看護師)岩淵聖也(言語聴覚士)  
津田佳代(理学療法士)須田佑美(管理栄養士)

## 概要

### 【はじめに】

終末期患者にKOMIケア理論を活用してケア介入したことで、患者の希望が表出され、その人らしさを引き出すと共に、家族の安心感にも繋がった事例を報告する。  
ナイチンゲールKOMI (Kanai Original Modern Innovatino) ケア理論とは、ナイチンゲール看護思想を基盤とした看護理論である。特徴として「生命過程・認識過程・生活過程」の3つ過程を丁寧に観察し、2つのチャートに記載し可視化することで、生命力や持てる力(残された力・秘めた力)を捉えるものである。

### 【事例紹介】

80歳代、男性  
長女夫婦らとの4人暮らし  
現病歴：X月、肝細胞癌にて化学療法施行。食事摂取困難で、PICC挿入し高カロリー輸液開始。翌月療養目的で当院に転院となった。前医で本人に病名は告知済み。予後3～6ヶ月であることは、家族にのみ告知され、DNARの方針となっていた。家族より「父が余命について聞いてきても、教えないで欲しい」と言われていた。  
入院時の状態：日常生活自立度C2、左上肢PICCから高カロリー輸液投与、会話可能。コロナ禍のため前医では家族への情報提供が少なく、家族は不安を訴えていた。

### 【倫理的配慮】

症例をまとめるにあたり、患者個人を特定するような表現はしないことを、患者・家族へ口頭で説明し同意を得た。

### 【経過】

入院時から患者と家族は経口摂取を希望。STが介入していたが、全粥・軟菜食の摂取量は0～1割程度であった。患者の食べたい気持ちと、患者・家族に残された時間を大切にしたいと考え、KOMIチャートシステムを活用し、患者の持てる力を活かしたケアを開始。  
患者から希望の表出がある度に家族と情報共有し、多職種で介入。食欲不振が続く中、患者から桃を食べたいと意思表示あり、連絡を受けた家族は桃を持参した。摂取時はオンラインで患者と家族を繋いだ。家族写真を見て将棋をしたいと希望した時は、リハビリで実施を試みた。愛犬に会いたいと希望した時は、家族が動画とぬいぐるみを持参し、オンライン面会を実施。経口摂取が困難となっても、退院したら畑がしたいなど意欲的な言葉が聞かれた。  
121病日目に永眠された。家族からは「最期まで生活の様子や変化を伝えてもらったので安心できた」との言葉を頂いた。

### 【考察】

終末期ケアでは、患者や家族の思いに寄り添い、最期までその人らしく安心して過ごせる環境を整えることが重要である。患者の持てる力を可視化し、家族や多職種と情報共有したことで、患者が最期まで希望を持ち続けることができた。また家族と対話を重ね、家族と共に患者に寄り添ったことで、家族の受容と安心感に繋がったと考える。